

台湾内政、日台関係をめぐる動向（2012年1月）

速報：馬英九總統が再選、立法委員選挙も国民党が勝利

石原忠浩（台湾・政治大学国際関係センター助理研究員）
（元（財）交流協会台北事務所専門調査員）

摘 要

1月14日に投開票が行われた第13回總統副總統選挙は、現職の馬英九總統が過半数の得票率を獲得し、蔡英文民主進歩党主席、宋楚瑜親民党主席を退け再選を果たした。台湾住民は馬政権1期目の施政を信任したことになる。馬總統は当選後の記者会見で「主権、安全、尊厳を生命を賭けて護る」と強調するとともに、「社会的弱者に留意を払い、公平正義を重視し、引き続き格差の縮小に努め、青年の雇用問題を重視する」旨述べた。

同日投開票が行われた第8回立法委員選挙は、国民党が全113議席の単独過半数を上回る64議席を確保した。民進党は改選前から8議席増の40議席、台湾團結聯盟と親民党は、それぞれ3議席を獲得した。選挙後の展望に関しては、3月号で検討する。

1. 選挙直前の様子

（1）各陣営の予測

選挙直前の予測に関し、各陣営は見通しを語った。国民党関係者は「北部勝利、南部苦戦」の基本構造は動かないとしつつも、高雄市では健闘し、中部でも有利な戦いをしているとして、得票率で3-4%リードし、得票数で41-69万票差で勝つと予測した。¹ 一方で、民進党陣営は、雲林以南の南部で大勝し、北部での劣勢を最低限に抑え、中部で接戦に持ち込むことで得票率1%、得票数にして20万票以内で勝利するだろうと予測した。² 一方、親民党陣営は、隠れ支持者も含めると200万票を基本ラインとして、かなりの上積みも期待できると楽観視した。³

立法委員選挙に関しては、国民党関係者は総議席113の過半数57議席は問題なく、60議席を超えても驚かないと自信を見せた。⁴ 民進党は、蔡主席に引っ張られて健闘している地域もあるが、国民党候補は地方の経営に長けており、總統選挙



ほどの勢いは期待できないとして40-45議席くらいの見通しになると語った。⁵ 親民党は、吳崑玉副秘書長が比例区では10-15%の得票率が期待でき4議席の獲得が見込まれると自信を見せた。⁶

（2）元米在台湾協会（AIT）台北事務所所長の発言とその波紋

總統選挙視察及び学術会議出席の名目で訪台し

たダグラスパール元 AIT 台北事務所所長は、12 日の『中天テレビ』のインタビューで「馬総統が再選されれば、米中の関係者は安心するだろう」と語るとともに「蔡主席の主張する『台湾コンセンサス』の実施は不可能なことである」と指摘した。⁷ 同発言につき民進党は、陳其邁報道官らが「パール元代表の発言は個人的発言であり、米政府を代表するものではない」と指摘するとともに蕭美琴・蔡英文選挙対策事務所国際事務部主任は同氏は選挙前に訪台し、国民党に呼応するような発言をすることは台湾住民の選択に対し尊重を欠くものであり、国民党が故意に操作しているのではないかと疑わざるを得ない」と疑義を呈した。⁸ 民進党の指摘に対して AIT 台北事務所は、「ダグラスパール氏は政府関係者ではなく、右発言は個人的意見であり米国政府を代表するものではない」と指摘し、米政府の台湾選挙に対する中立的立場を強調した。⁹

パール元所長の発言は、米中など台湾海峡の平和に利害を持つ国が一般的に抱く問題意識を私人の立場で述べたが、国民党支持傾向のあるテレビ局が単独インタビューを行い、大々的に報道したため、選挙終盤で敏感になっていた民進党陣営を刺激することになった。

(3) 投票前日の選挙活動

2004 年の総統選挙、2010 年の直轄市長選挙の前日に銃撃事件が起こり、翌日の有権者の投票行動に大きな影響を与えたことは記憶に新しいが、

今選挙では前日に特に大きな事件は起こらなかった。

選挙前日は、各候補が最後の支持を訴え台湾各地を縦横断した。馬総統は、故蔣経国元総統の墓参りをした後、苗栗、高雄と南下した。夜の選挙キャンペーンは高雄、台中、台北と再び北上し、馬総統以上の人気者とみなされている周美青夫人と一緒にステージに登り支持を訴えた。¹⁰ 民進党の蔡主席は基隆、桃園、新北と弱点とされる北部中心の活動を行ったが、最後の新北市では、11 月に大腸癌の手術を行い、その後も自宅療養していた李登輝元総統が参加し「最後のお願いだ」として蔡主席への支持を訴え、会場にいた蔡主席をはじめ多くの関係者が涙目になるシーンがあるなど初の女性総統誕生への期待が爆発した。¹¹ 親国民党は台中市で活動を行い、今選挙活動では初めて宋主席と林候補の両名が一緒に参加した。¹²



表1 総統副総統選挙の得票率、投票数

	馬呉ペア	蔡蘇ペア	宋林ペア
得票率	51.60%	45.63%	2.77%
得票数	6,891,139	6,093,578	369,588

資料元：中央選挙委員会「総統副総統 候選人得票数」(2012 年 1 月 13 日) http://www.cec.gov.tw/zh_TW/P1/n0000000000000000.html

2. 総統選挙の結果

(1) 結果概要と選挙後の候補者の発言

第13回総統副総選挙は、1月14日に投開票が行われ、中国国民党の馬英九・呉敦義ペアが過半数の得票率を超える689万1139票を獲得し、民主進歩党の蔡英文・蘇嘉全ペア(609万3578票獲得)、宋楚瑜・林瑞雄ペア(36万9558票獲得)を退け再選した。¹³ 投票率は事前の予想を下回り74.38%(前回76.33%)にとどまった。¹⁴ 敗北した蔡主席は、今選挙敗北の責任をとり民進党主席の辞任を表明した。

当選後の勝利宣言で馬総統は、「台湾住民は私に対して明確なメッセージと使命を託した。それは私に対して引き続きクリーン、繁栄、平和の台湾路線を歩み、台湾の新たな歴史の任務を完成させることである」と述べた。また選挙で戦った蔡主席、宋主席の批判と提言につき「彼らの意見は非常に貴重であり、彼らに対して感謝するとともに、右を慎重に評価、研究し、台湾住民に有利なものであれば採用したい」と述べるとともに、「再選後は半年に一度野党の代表とともに国是につき議論し台湾住民に有利な政策を模索したい」と与野党会談への強い意欲を見せた。兩岸関係に関しては「政治問題の議論は急がない、時機は熟していない」として「政治対話をすぐに始める必要は無く、現在は必ずしも最良の選択ではない」との立場を示した。

敗れた蔡主席は、先に馬総統の当選を祝福し、自身の敗戦を認め、党主席の辞任を表明するとともに、選挙結果は予測したものではなかったと述べるとともに馬総統に対しては「人民の声に耳を傾けるよう」呼びかけた。また自身の選挙に関しては、「成功しなかった要素原因はたくさんあるが、その中でも民進党の兩岸政策は再検討が必要である」と兩岸政策が一因と示す一方で、「台湾の兩岸政策は、コンセンサスが必要であり、右を軽

視すれば、台湾社会対立の重要な原因となるため国民党のように兩岸政策を単純化することはできない」として、『台湾コンセンサス』の方向性に間違いはないとの認識を示した。支持者に対しては、「勇気を持ってこの国家に対する責任を持ち、この国家を愛し続けなければならない。いつの日か私たちは必ず戻ってくる、私たちは諦めない、私たちの心は永遠に台湾人民と一緒にいる」と訴えた。¹⁵

僅か2.77%の得票率に終わった宋楚瑜親民党主席は、「台湾住民の決定を受け入れる」とし、「立法院で党団が組める支持を与えてくれたことに感謝する」とだけ述べ、記者会見を終えた。¹⁶

(2) 台湾メディアの分析の論評

今選挙結果につき、台湾大手各紙はそれぞれの立場で今選挙の結果を論評した。『中国時報』紙は馬総統の主張した「兩岸の安定カード」の主張が効果的であったと指摘した。¹⁷ 『聯合報』紙は、コラムで蔡主席の主張した「台湾コンセンサス」は馬総統が推進した「92年コンセンサス」の敵ではなく、蔡の敗戦の鍵は曖昧な兩岸政策であったと断言し¹⁸、同社説も「92年コンセンサスの信任投票の勝利」と論じるなど兩岸政策が鍵であったと指摘した。¹⁹ 一方、民進党寄りの『自由時報』は、社説で「中国の積極的な応援(助陣)と国家機器の運用にもかかわらず馬総統の今選挙での得票数と得票率がともに減少したのは、過去4年の執政が国民の期待に応えるものでなかったことを意味している」とし、馬総統は謙虚に民意に耳を傾けるべきであると強調した。²⁰ また、敗戦の原因を前述2紙が指摘した兩岸政策ではなく、「党の選挙情勢体制、選挙対策チームが全面的に選挙イシューを主導できず、蘇副総統候補の農舎問題、宣伝戦」などに求めた。²¹

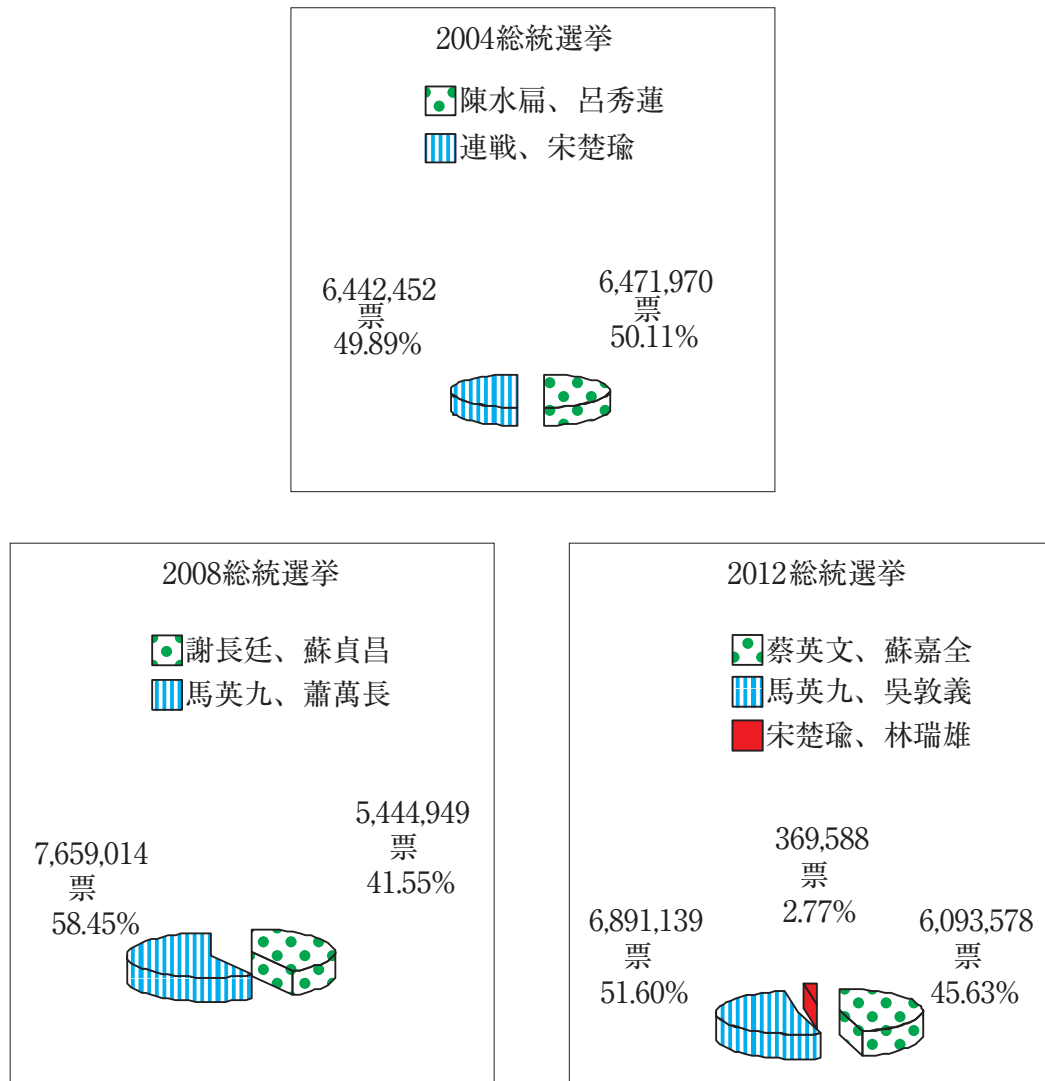


図1 2000年以降の總統選挙の得票率、得票数の比較

資料元：「總統藍綠得票消長」『蘋果日報』(2012年1月15日)S1。

(3) 分析

図1は2004年以降の總統選挙との比較だが、今選挙において馬總統は前回選挙より得票数で約77万票、得票率で6.85%減少した。一方民進党は、得票数で約65万票、得票率でも4%上積みした。宋林ペアの2.77%を仮に馬陣営と同様に藍軍の票として計算するならば、藍軍54.3VS緑軍45.6と台湾で頻繁に使用される基本盤（基礎票）藍軍55VS緑軍45とほぼ同じ数字になり、前回の選挙で国民党が「勝ちすぎた」ことを考慮すれば今選挙の結果は通常の姿に戻ったものと解釈す

ることも可能である。

宋林ペアの得票数が投票直前の世論調査の支持率が5-6%で推移していたことを考えれば、選挙終盤戦で宋の支持者が「馬には不満ではあるが、蔡が總統になることは阻止しなければならず、次善策として馬に投票しよう」という「宋を放棄し、馬を守る」という「棄保効果」が現れたとの指摘がされた。²²

表2は總統選挙の各県市の得票率と得票数を記したものであるが、国民党は宜蘭県を除き雲林県以北で勝利した。民進党は、今選挙では前回選挙

表2 総統副総統選挙の各縣市別得票率と得票数

	馬吳ペア	蔡蘇ペア	宋林ペア
	得票率、得票数	得票率、得票数	得率、得票数
台北市	57.87%、928,717	39.54%、634,565	2.58%、41,448
新北市	53.73%、1,245,673	43.46%、1,007,551	2.82%、65,269
台中市	52.16%、792,334	44.68%、678,736	3.16%、48,030
台南市	39.80%、435,274	57.72%、631,232	2.47%、27,066
高雄市	44.19%、730,461	53.42%、883,158	2.39%、39,469
宜蘭県	44.89%、115,496	52.53%、135,156	2.59%、6,652
桃園県	57.20%、639,151	39.85%、445,308	2.95%、32,927
新竹県	65.76%、190,797	30.93%、89,741	3.31%、9,599
新竹市	57.43%、134,728	39.49%、92,632	3.08%、7,216
苗栗県	63.85%、206,200	33.18%、107,164	2.97%、9,597
彰化県	50.58%、369,968	46.49%、340,069	2.93%、21,403
南投県	54.63%、158,703	42.37%、123,077	3.00%、8,726
雲林県	41.67%、159,891	55.81%、214,141	2.52%、9,662
嘉義県	39.04%、120,946	58.58%、181,463	2.38%、7,364
屏東県	42.93%、211,571	55.13%、271,722	1.94%、9,562
台東県	66.47%、72,823	30.50%、33,417	3.02%、3,313
花蓮県	70.30%、118,815	25.94%、43,845	3.76%、6,359
澎湖県	49.76%、22,579	45.65%、20,717	4.59%、2,082
基隆市	59.29%、128,294	36.77%、79,562	3.94%、8,533
嘉義市	46.27%、69,535	51.04%、76,711	2.69%、4,042
金門県	89.24%、34,676	8.22%、3,193	2.55%、990
連江県	86.61%、4,507	8.03%、418	5.36%、279
総計	51.60%、6,891,139	45.63%、6,093,578	2.77%、369,588

資料元：中央選挙委員会

で敗退した嘉義市、高雄市、宜蘭県で過半数以上の得票率を獲得したが、これも「北部東部離島は国民党、南部は民進党」の基本構図に全く変化が無かったことを示した。

3. 立法委員選挙

(1) 結果概要

総統副総統選挙と同日に投開票された立法委員

選挙は、国民党が改選前より8議席減となったものの安定多数の64議席を獲得した。民進党は改選前より8議席上乗せして40議席となったほか、小選挙区では無党団結聯盟が2議席、親民党、無所属が各1議席を獲得した。政党を選択する比例区では、国民、民進二大政党以外には、台湾団結聯盟、親民党が議席獲得に必要な5%を突破し、議席を獲得した。²³

表3 第8回立法委員選挙における各政党議席数

	国民党	民進党	親民党	台聯	無盟	無所属
総計（改選前）	64 (72)	40 (32)	3 (0)	3 (0)	2 (3)	1 (2)
小選挙区	44	27	0	0	1	1
比例区	16	13	2	3	0	0
平地原住民	2	0	1	0	0	0
山地原住民	2	0	0	0	1	0

資料元：中央選挙委員会の資料を元に筆者が修正

表4 比例区の政党得票率

	得票数	得票率	獲得議席数
国民党	5,863,379	44.55%	16
民進党	4,556,526	34.62%	13
台湾團結聯盟	1,178,896	8.96%	3
親民党	722,089	5.49%	2
緑党	229,566	1.74%	0
新党	195,960	1.49%	0

資料元：中央選挙委員会「政黨不分區當選名額分配計算表」（2012年1月14日）http://www.cec.gov.tw/zh_TW/FP/s0000000000000000.html

今選挙でも総統選挙同様「北部国民党、南部民進党」の構図となった。民進党は、台北市で1議席、新北市で2議席獲得したほか、基隆市、桃園県、新竹県市、苗栗県は全滅した。その一方、前回全滅した台中市（旧台中県市）では、3議席を奪ったほか、澎湖県で始めて議席を獲得し、国民党陣営の分裂の影響を受けた台東県でも勝利した。国民党は、前回獲得した宜蘭県、嘉義市で議席を失ったほか、前回躍進した高雄市は現有の6議席から2議席に減少し、党副主席で若手のホープである林益世も落選した。²⁴ なお、無所属候補として高雄市9区から出馬していた陳水扁前総統の子息陳致中氏は民進党の現職委員と争ったがともに落選し、国民党候補が漁夫の利を得て当選した。²⁵

比例区の結果は、筆者にとっては今選挙で最大のサプライズとなった。ほとんどの有識者も予測

しなかった、台湾團結聯盟が約118万票、得票率約9%を獲得し3議席獲得したことである。²⁶ 同党は小選挙区に候補を立てず、当初から黄昆輝主席が緑系支持者に、「総統選挙は蔡英文に、小選挙区は民進党候補に、政党票は一戸で1票は台聯に！」、「台聯存亡を賭けた一戦」との訴えをしてきたが、前述の選挙活動最終日に同党の精神的リーダーである李元総統が蔡主席の応援に立った演説が緑軍支持層に大きな感動を与え、投票行動に影響を及ぼしたと見られた。²⁷ 言い換えるならば、民進党支持者の一部が政党票では台聯に投票したことが推測できる。

今選挙では政党票を競う比例区には11党が出馬したが、議席を獲得できたのは4党（前は2党）、環境保護を党是に掲げる緑党、台湾独立に反対する新党は得票率1%台にとどまり議席ゼロに終わった。今選挙では台聯の躍進はあったもの

の、藍軍 VS 緑軍の構造でみれば、藍軍の国民党、親民党、新党の合計が約 51.5%、緑軍の民進党、台聯、緑党の合計が 45.3% となり、藍軍と緑軍の基本勢力構造に近いものとなった。

(2) 各党の反応

国民党は議席減の現実、民進党は予想を下回る議席数であった結果をふまえ、反省を口にするコメントが続いたのに対し、台聯は、黄主席が「今選挙の結果に感謝を申し上げるとともに過去に ECFA に反対したが、今後は中国問題に関して研究を深め、議会で重要な役割を演じたい」と述べた²⁸。

親民党は、前述したように宋主席は記者会見で自身の敗北には多くを語らず会見場を去ろうとしたが、追いつがる記者の「立法院における国民党との協力方法」に関する質問に対して「監督」とだけ述べ会見場を去ったと報じられた。²⁹ 同発言からは、親民党は立法院では国民党に協力するのではなく、与党を「監督」という野党に近い立場で挑む可能性を示唆することとなった。また比例区で当選した李桐豪氏は、宋主席は今選挙では落選したが引き続き親民党を指導していくとのコメントがあった。

4. 若干の感想

昨年 4 月末の民進党の蔡候補の選出から実質的

に開始した総統選挙は、当初の馬総統リードから、11 月の拮抗状況、12 月以降の馬の再びのリード、1 月に入ってからの再度の膠着状態と接戦を繰り返したが、最終的には馬の完勝に終わった感がある。宋楚瑜の出馬があったとはいえ、馬が過半数の得票数を獲得したことは、一期目の施政が一定の信任を得たのであろう。一方で筆者は、外国人として感じるままに「今回は過去の政権交代が起こった選挙で感じた、風、うねりのようなものを感じない」、「台湾住民は、馬に不満はあったとしてもその不満は政権交代を求めるほどのものではない」、「蔡英文の主張は有権者が、積極的に支持しようとするものがない」、「民進党の馬に対する執政批判、初の女性総統というスローガンだけでは過半数の支持は取れないだろう」と、昨秋以降、台湾人、中国人、日本人に意見聴取される際に回答してきたが、右認識は間違っていなかったと少々安堵した感じもある。

開票後の馬総統、蔡主席が行った勝利宣言、敗北宣言は筆者も感動させられた。勝者は奢ることなく、敗者を称え引き続き努力し施政にあたる旨述べ、敗者も勝者を称え謙虚に自身の失敗を反省し責任を取り、希望を語る態度は、今選挙が台湾の民主主義が着実に進歩を遂げていることを感じた瞬間であった。

¹ 「藍：馬可贏 41 至 69 萬票」『聯合報』（2012 年 1 月 13 日）頁 4、「藍：贏 50 到 70 萬票 綠：20 萬票內」『中国時報』（2012 年 1 月 13 日）頁 4。

² 「綠：蔡可贏 15 至 20 萬票」『聯合報』（2012 年 1 月 13 日）頁 4。

³ 「棄馬保宋 200 萬票起跳」『自由時報』（2012 年 1 月 14 日）頁 6。

⁴ 「總統過關 立委可過半」『自由時報』（2012 年 1 月 14 日）頁 6。

⁵ 「小英險勝 立委約 45 席」『自由時報』（2012 年 1 月 14 日）頁 6。

⁶ 「橘：基本盤仍在桃竹苗」『聯合報』（2012 年 1 月 13 日）頁 4。

⁷ 「包道格：馬若連任 美中台鬆一口氣」『聯合報』（2012 年 1 月 13 日）頁 1。

⁸ 民主進歩党ホームページ「國民黨找包道格背書 蕭美琴：對手選舉操作 非美國官方立場」（2012 年 1 月 13 日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6004

⁹ 「包道格言論 AIT：個人意見」『中国時報』（2012 年 1 月 14 日）頁 4。

¹⁰ 「總統立委大選 今投票」『聯合報』（2012 年 1 月 14 日）頁 1。

- 11 「『最後一次拜託』蔡英文泛淚光 李登輝站台：台灣交給你們了」『自由時報』（2012年1月14日）頁3。
- 12 「橘海淚眼 萬水姊：相信宋楚瑜」『聯合報』（2012年1月14日）頁6。
- 13 「得票過半 馬英九連任總統」『中國時報』（2012年1月15日）頁1、「總統大選 689萬：609萬馬英九贏了 92共識贏了」『聯合報』（2012年1月15日）頁1、「馬連任成功 每半年將晤在野領袖」『自由時報』（2012年1月15日）頁1。
- 14 中央選舉委員會ホームページ「第13任總統副總統及第8屆立法委員選舉」（2012年1月14日）http://www.cec.gov.tw/zh_TW/FPI/0000000000000000.html
- 15 「蔡：有一天我們會再回來」『自由時報』（2012年1月15日）頁4。
- 16 「宋：完全接受人民的決定」『自由時報』（2012年1月15日）頁10。
- 17 「兩岸安定牌奏效 承諾繼續改革 美國白宮聲明祝賀」『中國時報』（2012年1月15日）頁1。
- 18 「兩岸政策模糊 敗選關鍵」『聯合報』（2012年1月15日）頁2。
- 19 「社論 經濟選民的勝利，九二共識的定樁」『聯合報』（2012年1月15日）頁2。
- 20 「社論 大選落幕 挑戰接踵而來」『自由時報』（2012年1月15日）頁2。
- 21 「策略失誤多 估票也失靈 小英團隊無法主導議題 種百因」『自由時報』（2012年1月15日）頁6。
- 22 楊泰順「賭爛票變少 理性挺馬終棄宋」『聯合報』（2012年1月15日）頁26。
- 23 「台聯、親民黨 各3席 新國會 64席過半 綠40席小漲」『中國時報』（2012年1月15日）頁1、「立委席次 藍6綠40 過關門檻 台聯3橘3」『自由時報』（2012年1月15日）頁1、「立委席次國民黨64席民進黨40席」『聯合報』（2012年1月15日）頁1。
- 24 「大黨鞭林益世 5連霸夢碎」『自由時報』（2012年1月15日）頁17。
- 25 「郭玫成：被扁打敗 陳致中：為父盡孝」『中國時報』（2012年1月15日）頁19。
- 26 得票率約9%は日本の2009年の衆議院議員選挙では公明党に次ぐ得票率に値し、共産党、社民党を上回っている。
- 27 「吶喊存亡一戰 台聯衝破門檻」『自由時報』（2012年1月15日）頁10、「李登輝臨門一腳助攻 保台聯命脈」『聯合報』（2012年1月15日）頁4。
- 28 台湾團結聯盟ホームページ「台聯過關進入立法院 黃昆輝感謝選民：台聯將承擔更多責任」（2012年1月14日）http://www.tsu.org.tw/index.php?option=com_content&task=view&id=1376&Itemid=9
- 29 「宋微笑面對敗選 感謝黨團成立」『中國時報』（2012年1月15日）頁8。